

猿 橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

「高め合い」は瑛玖良の精神

校長 澁谷 一 男

厚く垂れ下がる鉛色の雲に、全て色彩を奪われてしまうかのごとく寡黙な相を深めていた景色が、初雪で鮮やかに生まれ変わった。肌を刺すような寒気も意に介さず、登校してくる子どもたちの表情は明るい。雪に心踊らせる子どもの様は、今も昔も変わらないようだ。

前号に引き続き、新しい学校目標「つながり 高め合い みんなでつくる 瑛玖良校」について述べる。今回は、「高め合い」である。

この部分だけ、前の教育目標「進んで学ぶ子ども 高め合う子どもきたえる子ども」を踏襲している。どうしても残したかった訳があるのだ。

「瑛玖良校」は、明治15年から猿橋村立猿橋尋常小学校となる明治25年までの10年間、実際に用いられていた校名である。その名は、「ああ ながやまもりてる 名もゆかし 瑛玖良校」と校歌でも高らかに謳われ、校長室には、第3代県令（現在の県知事）永山盛輝の書も残されている。（明治15年に書かれたもので、本たよりの題字は、この永山の書を写し取ったものである。）

ちなみに、それぞれの漢字の意味を調べてみると、『瑛』は、「①玉の色が白く鮮やかなさま、美しいさま ②磨く、切磋」とあり、『玖』は、「黒色の美しい石」とあった。漢字のもつ意味からも、「瑛玖良」が切磋琢磨を意味することが分かる。「高め合う」は、正に互いに磨き合い、共に向上すること、切磋琢磨することであり、建学の精神「瑛玖良」を今に継承している文言である。

また、今年度から小学校で全面実施となっている新学習指導要領では、「複雑で予測困難な時代の中でも、社会の変化に主体的に向き合って関わり合い、多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となることができる力を育む」ことを重視している。「瑛玖良」に込められた猿橋小学校建学の精神は、150年近く経った今でも色あせるどころか、これからの教育が目指す方向とも見事に合致していると言えよう。

これらのことから、「高め合う」を新たな教育目標にも踏襲することにしたのである。

朝、いつものように教室を回っていると、子どもたち一人一人が2学期の振り返りを書いている学級があった。挨拶、学習、運動、創意工夫、協力、思いやりなどの各項目に、◎がずらりと並んでいる子が大勢いる。友達とのかかわりを通して「高め合い」伸びた足跡が、確かにそこにあった。

